

の移行. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).

- 9) 下岡ゆき子 (2003) 野生クモザルのロングコールの発声について. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).

◇講演

- 1) 橋本千絵 (2003) 類人猿の子供の行動発達～コンゴの森で野生ボノボの成長を追う～. 愛知県立明和高校 PTA 研修会 (2003 年 11 月, 名古屋).
- 2) 大澤秀行 (2003) 霊長類研究から探る人間社会の原型. 日本人材マネジメント協会 講演会 (2003 年 7 月, 東京).
- 3) 下岡ゆき子 (2003) ヒトの社会と霊長類の社会—南米アマゾンにおけるクモザルの社会構造の研究. 名古屋弁護士会 弁護士実務修習 (2003 年 9 月, 犬山).
- 4) 杉浦秀樹 (2003) 西部林道のサル (とサル研究者). 第 5 回屋久島フィールドワーク公開講座 (2003 年 8 月, 上屋久町).
- 5) 杉浦秀樹 (2003) ニホンザルの音声コミュニケーション. 第 40 回市民文化大学 (2003 年 9 月, 一宮市).

行動神経研究部門

○思考言語分野

松沢哲郎・友永雅己・田中正之

<研究概要>

A) チンパンジー・コミュニティにおける知識・技術の社会的伝播

松沢哲郎・友永雅己・田中正之・松林清明¹⁾・後藤俊二¹⁾・鈴木樹理¹⁾・熊崎清則¹⁾・前田典彦¹⁾・加藤朗野¹⁾・山内志乃¹⁾・南雲純治²⁾・落合知美³⁾・大橋岳⁴⁾・上野有理⁴⁾・林美里⁴⁾・松野響⁴⁾・高島友子⁵⁾

¹⁾ 人類進化モデル研究センター, ²⁾ 認知学習分野,
³⁾ 教務補佐員, ⁴⁾ 大学院生, ⁵⁾ 技術補佐員

5月に新たに子どもが生まれ, チンパンジー母子4組を中心とする1群15個体の飼育下コミュニティを対象として, 道具使用行動や認知スキルの母子間・世代間・コミュニティ内での伝播について実験的な検討を行った。これらは以下の研究者との共同研究である。竹下秀子, 水野友有 (以上, 滋賀県大), 武田庄平 (東京農工大), 小椋たみ子 (神戸大), 岡本早苗 (名古屋大), 伊村知子 (関学大), 魚住みどり (慶応大)。また, NHK (アニカ・プロダクション), 中京TVと共同して, 知識・技術の社会的伝播の研究に関して継続撮影するとともに映像記録をまとめた。

B) チンパンジーの認知発達研究

友永雅己・田中正之・松沢哲郎・林美里 (大学院生)・上野有理 (大学院生)

チンパンジーの乳児3個体を対象として, チンパンジーの認知発達の研究を総合的にこなした。3歳齢から4歳齢にかけての1年間において, コンピュータ課題や対象操作課題など各種認知課題の導入を行った。単純な反応課題だけでなく, 弁別課題の学習も可能になってきている。さらに, 自己鏡映像認知を示唆する自己指向性反応の出現が3歳半あたりから頻出し始めた。これらは以下の研究者との

共同研究である。竹下秀子，水野友有（以上，滋賀県大），小椋たみ子（神戸大），岡本早苗（名古屋大），伊村知子（関学大），魚住みどり（慶応大），村井千寿子，小杉大輔（以上京都大）。

C) チンパンジーの認知・言語機能の比較認知的研究

松沢哲郎・友永雅己・田中正之・南雲純治（認知学習分野）・

Dora Biro（学振外国人研究員）・松野響（大学院生）

チンパンジーとヒトを対象に，認知・言語機能の比較研究を継続しておこなった。主として，1 個体がコンピュータ制御タッチモニターに直面するテスト場面で，注意，運動知覚，数の大小判断，視線の認識，絵画的奥行き知覚，カテゴリー認識，トークンの使用などの研究をおこなった。これらの一部は伊村知子（関学大）との共同研究である。

D) 野生チンパンジーの道具使用と文化的変異

松沢哲郎・大橋岳（大学院生）・林美里（大学院生）・Dora Biro（学振外国人研究員）

西アフリカ・ボソウとその東隣のニンバのコミュニティの行動と生態を 2003 年 5 月から 2004 年 3 月まで調査し，ビデオ記録の解析をおこなった。これらは以下の研究者との共同研究である。山越言（京都大），水野友有（滋賀県大），加藤朗野（人類進化モデルセンター），平田聡（林原類人猿研究センター），藤田志歩（岐阜大），Tatyana Humle（スターリング大），Claudia Sousa（リスボン大），Katelijne Koops（ユトレヒト大）。また，植林による野生保全の試みである「緑の回廊」計画について映像記録をまとめ，放映した（TBS「素敵な宇宙船地球号」）。

E) 飼育霊長類の環境エンリッチメント

松沢哲郎・友永雅己・田中正之・鈴木樹理¹⁾・

熊崎清則¹⁾・前田典彦¹⁾・山内志乃¹⁾・落合知美²⁾

¹⁾人類進化モデル研究センター，²⁾教務補佐員

動物福祉の立場から環境エンリッチメントに関する研究をおこなった。3次元構築物の導入や植樹の効果の評価，個別飼育マカクザルへの各種パズルフィーダー導入の効果，芳香刺激の呈示によるストレスの低減，認知的ストレスの非侵襲的生理指標による評価などを行った。これらは山根到（都神研），川上清文（聖心女子大），大平秀樹，市川菜穂（以上名古屋大），磯和勅子（三重県看護大）との共同研究である。

F) 各種霊長類の認知発達

友永雅己・松沢哲郎・田中正之・打越万喜子（大学院生）

アジルテナガザルの幼児およびマカクザルの乳児を対象に，種々の認知能力の発達について検討を行った。これらは，以下の研究者との共同研究である。藤田和生，桑畑裕子，足立幾磨，堤清香，村井千寿子，小杉大輔（以上京都大）

G) ヒトの子どもの認知発達

松沢哲郎・林美里（大学院生）

犬山市の心身障害児施設「こすもす園」で，自閉症児，ダウン症児など障害児のコミュニケーション行動の発達について，参与観察研究を行った。これは，水野友有（滋賀県立大），岡本早苗（名古屋

大, マックスプランク進化人類研究所) との共同研究である。

H) 各種霊長類の瞬目行動の系統比較

友永雅己

各種霊長類を対象に, 自発的瞬目頻度を測定し, 系統比較を行うための予備的データを記録した。この研究は田多英興(東北学院大), 杉山敏子(東北大医短), 大森慈子(仁愛大), 廣川空美(岐阜大), 大平英樹(名古屋大) との共同研究である。

I) 学習場面におけるチンパンジー母子間の相互作用

田中正之

チンパンジー乳児が母親同伴で学習課題をおこなう場面において, 母親の行動が子どもの学習への態度にどのような影響を及ぼすかを調べた。課題遂行中に乳児が母親に授乳を求めるといった, 一箇体の場面では見られなかった多様な行動が見られた。

J) 研究成果の情報公開に関する研究

松沢哲郎・友永雅己・田中正之・落合知美(教務補佐員)・福富憲司(研究支援推進員)

一般に広くチンパンジー研究についての情報を公開する目的で, ホームページ「チンパンジー・アイ」を制作し, 毎月更新した。ホームページ公開以来の総閲覧数は21万件(英語は3万件)を越えた。また, 野生チンパンジーに関するホームページ「Chimpanzee World」(総閲覧数, 和:54,000件, 英:8,700件)を公開している。

<研究業績>

◇原著論文

- 1) Biro, D., Inoue-Nakamura, N., Tonooka, R., Yamakoshi, G., Sousa, C., Matsuzawa, T. (2003) Cultural innovation and transmission of tool use in wild chimpanzees: evidence from field experiments. *Animal Cognition* 6: 213-223.
- 2) Celli, M.C., Tomonaga, M., Udono, T., Teramoto, M., Nagano, K. (2003) Tool use tasks as environmental enrichment for captive chimpanzees. *Applied Animal Behaviour Science* 81: 171-182.
- 3) Hayashi, M., Matsuzawa, T. (2003) Cognitive development in object manipulation by infant chimpanzees. *Animal Cognition* 6: 225-233.
- 4) Imura, T., Tomonaga, M. (2003) Perception of depth from shading in infant chimpanzees (*Pan troglodytes*). *Animal Cognition* 6: 253-258.
- 5) Iversen, I., Matsuzawa, T. (2003) Development of interception of moving targets by chimpanzees (*Pan troglodytes*) in an automated task. *Animal Cognition* 6: 169-183.
- 6) Kawai, N., Morokuma, S., Tomomaga, M., Horimoto, N., Tanaka, M. (2004) Associative learning and memory in a chimpanzee fetus: Learning and long-lasting memory before birth. *Developmental Psychobiology* 44(2): 116-122.
- 7) Matsuzawa, T. (2003) The Ai project: historical and ecological contexts. *Animal Cognition* 6: 199-211.
- 8) Murai, C., Tomonaga, M., Kamegai, K., Terazawa, N., Yamaguchi, M., (2003) Do infant Japanese macaques (*Macaca fuscata*) categorize objects without specific training? *Primates* 45: 1-6.

- 9) Myowa-Yamakoshi, M., Tomonaga, M., Tanaka, M., Matsuzawa, T. (2003) Preference for human direct gaze in infant chimpanzees (*Pan troglodytes*). *Cognition* 89: B53-64.
- 10) Nishimura, T., Mikami, A., Suzuki, J., Matsuzawa, T. (2003) Descent of the larynx in chimpanzee infants. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 100 (12): 6930-6933.
- 11) Shimizu, K., Douke, C., Fujita, S., Matsuzawa, T., Tomonaga, M., Tanaka, M., Matsubayashi, K., Hayashi, M. (2003) Urinary steroids, FSH and CG measurements for monitoring the ovarian cycle and pregnancy in the chimpanzee. *Journal of Medical Primatology* 32: 15-22.
- 12) Sousa, C., Okamoto, S., Matsuzawa, T. (2003) Behavioural development in a matching-to-sample task and token use by an infant chimpanzee reared by his mother. *Animal Cognition* 6: 259-267.
- 13) Tanaka, M. (2003) Visual preference by chimpanzees (*Pan troglodytes*) for photos of primates measured by a free choice-order task: implication for influence of social experience. *Primates* 44 (2): 157-165.
- 14) Tanaka, M., Tomonaga, M., Matsuzawa, T. (2003) Finger drawing by infant chimpanzees (*Pan troglodytes*). *Animal Cognition* 6: 245-251.

◇総説

- 1) 松沢哲郎 (2004) 「心の理論」の進化的基盤. 発達 97: 104-112.
- 2) 田中正之 (2003) チンパンジーの子どもの学び方. 発達 96: 102-112.

◇書評

- 1) Matsuzawa, T. (2003) From chimpanzees to the human mind. *Science* 300: 2034-2035.

◇その他雑誌

- 1) 小杉大輔, 田中正之 (2004) ちびっこチンパンジー (第 25 回) - 「なんで?」から広がる世界-. 科学 74(1): 138-139.
- 2) 松沢哲郎, 熊崎清則, 前田典彦, 松林清明 (2003) ちびっこチンパンジー: ピコが生まれた. 科学 73(9): 934-935.
- 3) 松沢哲郎, 熊崎清則, 前田典彦, 後藤俊二, 鈴木樹里, 加藤朗野, 松林清明, 友永雅己 (2003) ちびっこチンパンジー (第 22 回) 発達の障害とケア. 科学 73 (10): 1174-1175.
- 4) 松沢哲郎 (2004) ちびっこチンパンジー (第 27 回) アフリカの森から-5 人のチンパンジーが死んだ-. 科学 74(3): 358-359.
- 5) 田中正之 (2003) ちびっこチンパンジー (第 20 回) 親のしていることはしたくなる. 科学 73(8): 910-911.
- 6) 友永雅己 (2003) ちびっこチンパンジー (第 19 回) 跳ぶべきか跳ばざるべきか?. 科学 73 (7): 744-745.
- 7) 友永雅己 (2003) ちびっこチンパンジー (第 23 回) 母子の葛藤. 科学 73(11): 1244-1245.
- 8) 友永雅己 (2004) ちびっこチンパンジー (第 26 回) 物を介した母子のやりとり. 科学 74:(2) 260-261.

◇学会発表等

- 1) Hayashi, M., Matsuzawa, T. (2003) Manipulation of multiple objects by chimpanzees. *Kyoto University International Symposium "Self, Cognition, and Emotion"* (Dec. 2003, Ann Arbor, USA).

- 2) Imura, T., Tomonaga, M., Imada, M. (2003) The effect of cast shadows on pictorial depth perception in chimpanzees and humans. . 21st Century COE program of Kyoto University Psychology Union The First International Workshop for Young Psychologists "Evolution and Development of Cognition" (Jul. 2003, Kyoto, Japan) Program & Abstracts : P-26.
- 3) Kuwahata, H., Adachi, I., Fujita, K., Tomonaga, M., Matsuzawa, T. (2003) Development of schematic face preference in macaque monkeys. 21st Century COE program of Kyoto University Psychology Union The First International Workshop for Young Psychologists "Evolution and Development of Cognition" (Jul. 2003, Kyoto, Japan) Program & Abstracts : P-14.
- 4) Mizuno, Y., Tomonaga, M., Takeshita, H. (2003) Crying in infants and mother-infant interactions in chimpanzees. 21st Century COE program of Kyoto University Psychology Union The First International Workshop for Young Psychologists "Evolution and Development of Cognition" (Jul. 2003, Kyoto, Japan) Program & Abstracts : P-18.
- 5) Myowa-Yamakoshi, M., Tomonaga, M., Tanaka, M., Matsuzawa, T. (2003) Development of face processing in infant chimpanzees. 21st Century COE program International Symposium, "Diversity of Cognition" (Sep. 2003, Kyoto, Japan) Program & Abstracts : Poster-5.
- 6) Okamoto, S., Tanaka, M., Tomonaga, M. (2003) Development of joint attention in an infant chimpanzee (Pan troglodytes). 21st Century COE program of Kyoto University Psychology Union The First International Workshop for Young Psychologists "Evolution and Development of Cognition" (Jul. 2003, Kyoto, Japan) Program & Abstracts : P-19.
- 7) Tanaka, M. (2003) Effects of a chimpanzee mother's behavior on her infant's learning. 21st Century COE program International Symposium, "Diversity of Cognition" (Sep. 2003, Kyoto, Japan) Program & Abstracts : Poster-6.
- 8) Tomonaga, M. (2003) Perceptual bases for gaze recognition in chimpanzees (Pan troglodytes). . 21st Century COE program International Symposium "Diversity of Cognition: (Sep. 2003, Kyoto, Japan) Program & Abstracts : Talk-2.
- 9) Tomonaga, M., Okamoto, S., Myowa-Yamakoshi, M. (2003) Gaze recognition in chimpanzees (Pan troglodytes). Kyoto University International Symposium (Kyoto-Michigan Collaboration in Psychology) "Self, Cognition, and Emotion". (Dec. 2003, Ann Arbor, USA) Program & Abstracts : 64.
- 10) Uchikoshi, M., Matsuzawa, T. (2003) Behavioral development of agile gibbons : The first five years after the birth. 21st Century COE program of Kyoto University Psychology Union The First International Workshop for Young psychologists "Evolution and Development of Cognition" (July. 2003). Program & Abstracts : Oral-7.
- 11) 赤見理恵, 落合一平, 大平知美, 倉島治, 長谷川寿一, 松沢哲郎, 平井百樹, 吉川泰弘, 吉原耕一郎 (2003) 国内飼育下チンパンジーの個体情報データベースの整備と活用. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).
- 12) 足立幾磨, 桑畑裕子, 藤田和生, 石川悟, 友永雅己, 加藤朗野, 釜中慶朗, 清水慶子, 松沢哲郎 (2003) マカケザル乳児における生物的運動の知覚. 日本心理学会第 67 回大会 (2003 年 9 月, 東京). 発表論文集 : 761.
- 13) 足立幾磨, 桑畑裕子, 藤田和生, 友永雅己, 松沢哲郎 (2003) ニホンザル乳児における種認識. 日本動物心理学会第 63 回大会・ (2003 年 11 月, つくば). 動物心理学研究 53: 91.

- 14) 林美里, 松沢哲郎 (2003) チンパンジーにおける積み木の構成. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).
- 15) 林美里, 松沢哲郎 (2003) チンパンジーにおける複数の物の操作. 日本動物心理学会第 63 回大会 (2003 年 10 月, つくば).
- 16) 林美里, 松沢哲郎 (2003) チンパンジーにおける階層的な物の操作. 日本発達心理学会第 15 回大会 (2004 年 3 月, 調布).
- 17) 伊村知子, 友永雅己, 今田寛 (2003) チンパンジーとヒトにおける corridor illusion: 線遠近法が物体の大きさの知覚に及ぼす影響. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台). プログラム・予稿集 : 42.
- 18) 伊村知子, 友永雅己, 今田寛 (2003) チンパンジーとヒトにおける陰影による奥行知覚: キャストシャドウの効果. 日本動物心理学会第 63 回大会・ (2003 年 11 月, つくば). 動物心理学研究 5
- 19) 伊村知子, 友永雅己, 山口真美, 今田寛 (2004) 乳児における陰影による奥行知覚の発達(2). 日本発達心理学会第 15 回大会 (2004 年 3 月, 東京). 発表論文集 : 172.
- 20) 兼子明久, 小林真人, 小野篤史, 中山奈美, 田中紫乃, 松沢哲郎 (2003) 最も近くいるのは誰? チンパンジーのニアレスト・ネイバーの発達的变化. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).
- 21) 川合伸幸, 上野吉一, 友永雅己 (2003) ニホンザル新生児における学習・記憶研究の予備的検討. 日本動物心理学会第 63 回大会・ (2003 年 11 月, つくば). 動物心理学研究 53: 125.
- 22) 川上清文, 高井清子, 友永雅己, 鈴木樹理, 日下富美代, 岡井崇 (2004) 微笑の起源(2). 日本発達心理学会第 15 回大会 (2004 年 3 月, 東京). 発表論文集 : 2.
- 23) 小杉大輔, 村井千寿子, 石田ひらく, 友永雅己, 田中正之 (2003) 1 歳児における動物の行為の目的の理解. 日本心理学会第 67 回大会 (2003 年 9 月, 東京).
- 24) 松沢哲郎, 熊崎清則, 前田典彦, 松林清明 (2003) 飼育下チンパンジーの出産とヒトによる保育介助. 日本動物心理学会第 63 回大会 (2003 年 10 月, つくば).
- 25) 松沢哲郎 (2004) ヒトの心の霊長類の起源: ゲノム研究との連携. 国立遺伝学研究所共同研究集会「霊長類の遺伝学研究」 (2004 年 2 月, 三島).
- 26) 松沢哲郎 (2004) HOPE プロジェクトのめざすもの. 日本学術振興会先端研究拠点事業第 1 回 HOPE 国際ワークショップー進化の隣人たち: 遺伝子から心までー (2004 年 3 月, 京都).
- 27) 水野友有, 友永雅己, 竹下秀子 (2003) チンパンジー乳児における「泣き(crying)」と母子関係. 日本赤ちゃん学会第 3 回総会・学術集会 (2003 年 5 月, 東京). プログラム抄録集 : 31.
- 28) 水野友有, 友永雅己, 竹下秀子 (2003) チンパンジー乳児における「泣き(crying)」と母子関係. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台). プログラム・予稿集 : 41.
- 29) 水野友有, 五十嵐 (上井) 稔子, 林美里, 竹下秀子, 松沢哲郎 (2004) チンパンジー新生児の姿勢運動発達ーNBAS・姿勢反応検査・GM による下肢発達の評価ー. 日本発達心理学会第 15 回大会 (2004 年 3 月, 調布).
- 30) 村井千寿子, 友永雅己 (2003) ニホンザル幼児における回避反応を指標としたカテゴリ化研究. 日本心理学会第 67 回大会 (2003 年 9 月, 東京). 発表論文集 : 1128.
- 31) 村井千寿子, 小杉大輔, 友永雅己, 田中正之, 松沢哲郎, 板倉昭二 (2004) チンパンジー幼児は「生物」カテゴリを形成するのか? 日本発達心理学会第 15 回大会 (2004 年 3 月, 調布).
- 32) 中山奈美, 松沢哲郎 (2003) 物のやりとりにもみるチンパンジー個体間個体交渉の発達的变化. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).

- 33) 西村剛, 三上章允, 鈴木樹理, 加藤朗野, 熊崎清則, 前田典彦, 田中正之, 友永雅己, 松沢哲郎 (2003) チンパンジー乳幼児の喉頭下降. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台). 予稿集 : p. 35.
- 34) 落合一平知美, 赤見理恵, 倉島治, 長谷川寿一, 松沢哲郎, 平井百樹, 吉川泰弘 (2003) 動物園などで死亡したチンパンジーのサンプル利用. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).
- 35) 佐久間尚子, 伊集院睦雄, 伏見貴夫, 辰巳格, 田中正之, 天野成昭, 近藤公久 (2003) 単語心像性データベースにおける単語の多義性. 日本心理学会第 67 回大会 (2003 年 9 月, 東京).
- 36) 友永雅己 (2003) チンパンジーにおける視線認知の知覚的基盤. 日本心理学会第 67 回大会ワークショップ「Do the Eyes Have It? - 視線認知をめぐる最近の動向 -」 (2003 年 9 月, 東京).
- 37) 田中正之 (2003) 自由選択課題を用いたチンパンジーの視覚的好みの検討. 日本心理学会第 67 回大会 (2003 年 9 月, 東京).
- 38) 田中正之 (2003) 大きさか数か - チンパンジーにおける量的特性に基づく視覚的好み -. 日本動物心理学会 63 回大会 (2003 年 10 月, つくば).
- 39) 田中正之 (2003) 母子同居場面におけるチンパンジー乳児の課題学習. 2003 年度 京都大学霊長類研究所 共同利用研究会「チンパンジー認知研究の 25 年と今後の展望」 (2003 年 11 月, 犬山).
- 40) 田中正之 (2003) 母親の行動がチンパンジー乳児の学習に及ぼす効果. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).
- 41) 田中正之 (2004) 母親が子どもの学習に及ぼす効果 - チンパンジー乳児のコンピュータ課題学習場面から -. 日本発達心理学会第 15 回大会 (2004 年 3 月, 調布).
- 42) 友永雅己, 林美里 (2003) チンパンジー乳児における物のやり取り. 日本赤ちゃん学会第 3 回総会・学術集会 (2003 年 5 月, 東京). プログラム抄録集 : 40.
- 43) 友永雅己, 林美里 (2003) チンパンジー乳児における物の受け渡し. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台). プログラム・予稿集 : 41.
- 44) 友永雅己, 伊村知子 (2003) 社会的な指示動作はチンパンジーの注意をシフトさせるか? 日本動物心理学会第 63 回大会・ (2003 年 11 月, つくば). 動物心理学研究 53: 107.
- 45) 友永雅己 (2003) 跳ぶべきか跳ばざるべきか - チンパンジー乳児における運動の選択と身体の関係について -. SAGA6 国際シンポジウム (2003 年 11 月, 日野). プログラム : 36.
- 46) 友永雅己, 明和政子 (2003) 類人猿乳児における視線の認識. 日本心理学会第 67 回大会 (2003 年 9 月, 東京). 発表論文集 : 732.
- 47) 友永雅己, 明和 (山越) 政子, 水野友有, 岡本早苗, 山口真美, 小杉大輔, Bard, K.A. (2004) チンパンジー乳児における社会的認知の発達 - 2 か月時の質的变化と「9 か月の奇跡」の欠如? -. 日本発達心理学会第 15 回大会 (2004 年 3 月, 東京). 発表論文集 : 177.
- 48) 上野有里, 落合知美, 松沢哲郎 (2003) チンパンジー母子における新規食物への反応. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台).
- 49) 上野吉一, 友永雅己 (2003) 動物園の行動学: 学生実習としての動物園の利用. SAGA6 国際シンポジウム (2003 年 11 月, 日野). プログラム : 36.
- 50) 魚住みどり, 友永雅己, 渡辺茂 (2003) チンパンジー乳児における自己の名前概念の獲得 - 自己鏡映像認知との関わり -. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台). プログラム・予稿集 : 41.
- 51) 山中敦子, 友永雅己, 上野吉一, 木村直人, 中村美知夫 (2003) 動物園を利用した教員研修会 - SAGA を利用した教育活動への協力の事例. SAGA6 国際シンポジウム (2003 年 11 月, 日野). プログ

ラム : 37.

- 52) 山根到, 友永雅己, 上野吉一, 鈴木樹理 (2003) 個別飼育ニホンザルの環境エンリッチメント. 第 19 回日本霊長類学会大会 (2003 年 6 月, 仙台). プログラム・予稿集 : 46.

◇講演

- 1) Matsuzawa, T. (2003) Cognitive development in chimpanzees. Summer program of RIKEN 2003 (Aug. 2003, Wako, Japan).
- 2) Matsuzawa, T. (2003) Culture, Education, and Mother-infant bond in chimpanzees. Colloquium of Beijing University (Oct. 2003, Beijing, China).
- 3) Matsuzawa, T. (2003) Culture and Education in chimpanzees. International Symposium of IUBS, Soken-dai (Nov. 2003, Hayama, Japan).
- 4) Matsuzawa, T. (2003) Culture and education in chimpanzees. Seminar for the Evolution and Human Adaptation Program, University of Michigan (Dec. 2003, Ann Arbor, USA).
- 5) Matsuzawa, T. (2003) Cognitive development in chimpanzees. International symposium of Kyoto-Michigan collaboration in Psychology "Self, Cognition, and Emotion", University of Michigan (Dec. 2003, Ann Arbor, USA)
- 6) Matsuzawa, T. (2003) Cognitive development in chimpanzees. Colloquium of Department of Psychology, Birkbeck College, University of London (Dec. 2003, London, UK).
- 7) Matsuzawa, T. (2004) On HOPE project. The signing ceremony of JSPS and MPG (Feb. 2004, Munich, Germany).
- 8) Matsuzawa, T. (2004) Prerequisites of tool use in chimpanzees. 21COE International symposium on African Great Apes, Kyoto University (Mar. 2004, Kyoto, Japan).
- 9) Matsuzawa, T. (2004) HOPE: A project of KUPRI and MPIEVA 2004-2009. First International workshop of HOPE (Mar. 2004, Kyoto, Japan)
- 10) Matsuzawa, T. (2004) The mind of the chimpanzee: In the wild and in captivity. ROH public symposium on "Sequencing the chimpanzee genome: What have we learned?", UCSD. (Mar. 2004, La Jolla, USA)
- 11) Matsuzawa, T. (2004) Cognition and personality in chimpanzees. ROH expert meeting on "Sequencing the chimpanzee genome: What have we learned?"
- 12) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーとの出会い. World Veterinary Day in Japan—人と動物, そして獣医師— (2003 年 4 月, 名古屋).
- 13) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーの子育てと教育. 平成 15 年度愛知県児童館連絡協議会総会 (2003 年 4 月, 犬山).
- 14) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーの知性と教育. 第 26 回医学会総会 (2003 年 4 月, 福岡).
- 15) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーアイとアユムの 3 年間—子どもの成長から考える動物福祉と環境エンリッチメント. アユムくん誕生 3 周年記念講演会 (2003 年 5 月, 東京).
- 16) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーの親子: 最初の 3 年間. 第 3 回法然院夜の森の教室 (2003 年 5 月, 京都).
- 17) 松沢哲郎 (2003) 進化の隣人 ヒトとチンパンジー. 立命館大学工学研究所春季学術講演会 (2003 年 6 月, 草津).
- 18) 松沢哲郎 (2003) 進化の隣人 ヒトとチンパンジー. 第 20 回山口県母性衛生学会総会および学術講

演会 (2003年7月, 山口).

- 19) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーの学習と文化. 名古屋市立高等学校教員研修会 (2003年7月, 名古屋).
- 20) 松沢哲郎 (2003) 知の起源. 第4回独立行政法人放射線医学総合研究所一般講演会 (2003年7月, 大阪).
- 21) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーの子どもの成長. 第17回日本手術看護学会 (2003年10月, 神戸).
- 22) 松沢哲郎 (2003) 進化の隣人 ヒトとチンパンジー. 北海道教育大学旭川校80周年記念講演会 (2003年10月, 旭川).
- 23) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーの親子関係・なかま関係. ひばりが丘幼稚園舎講演会 (2003年10月, 札幌).
- 24) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーの親子のきずな. 名古屋柳城短期大学創設50周年記念教育講演会 (2003年11月, 名古屋).
- 25) 松沢哲郎 (2003) チンパンジーの親子のきずな. 青山学院大学心理学会 (2003年11月, 東京).
- 26) 松沢哲郎 (2004) チンパンジーにおける模倣と表象. 第16回自律分散システムシンポジウム (2004年1月, 京都).
- 27) 松沢哲郎 (2004) チンパンジーの教育と親子のきずな. 第46回中部地区幼児教育研究会 (2004年1月, 名古屋).
- 28) 友永雅己 (2003) チンパンジーの子育てに学ぶ -母になる過程に注目して. (財)安田生命社会事業団2003年度夏期講座3「子育て支援 初めの一步, 次の一步」 (2003年8月, 東京).
- 29) 友永雅己 (2003) チンパンジーの認知発達. 第2回動物園を利用した教員研修会 -動物を学ぶ+動物に学ぶ (2003年8月, 犬山).
- 30) 友永雅己 (2003) チンパンジーの母子関係から人の発達を考える. 佐賀県精神保健福祉協会精神保健セミナー2003「そだち, そだてる」 (2003年9月, 佐賀).
- 31) 友永雅己 (2003) チンパンジーの母子関係を支えるもの. 広島市児童療育指導センター30周年記念大会基調講演 (2003年11月, 広島).
- 32) 友永雅己 (2003) チンパンジーのこころの発達 -視線認知を中心に-. 愛知淑徳大学コミュニケーション心理学会講演会 (2003年12月, 名古屋).
- 33) 田中正之 (2003) チンパンジーの子育てから学ぶこと. 岩倉市保育園職員研修会 (2003年6月, 岩倉).
- 34) 田中正之 (2003) チンパンジーの子どもの育ち方・学び方. 御嵩町教育委員会・子育て講演会 (2003年9月, 御嵩町).
- 35) 田中正之 (2003) チンパンジーの母子関係. 豊田市福祉事業団互助会研修会 (2003年11月, 豊田).
- 36) 田中正之 (2004) チンパンジーの子どもの育ち方・学び方. 学びのまちづくり講演会 (2004年2月, 諏訪).

◇その他

- 1) 松沢哲郎(2003)現代のことば. 京都新聞 (5月15日).
- 2) 松沢哲郎(2003)現代のことば. 京都新聞 (7月31日).
- 3) 松沢哲郎(2003)現代のことば. 京都新聞 (10月1日).
- 4) 松沢哲郎(2003)現代のことば. 京都新聞 (12月1日).

- 5) 松沢哲郎(2004)現代のことは. 京都新聞 (2月5日).
6) 松沢哲郎(2003)文化はいかに伝えられるか. 聖教新聞 (7月10日).

○認知学習分野

正高信男・泉明宏

<研究概要>

A-1) 言語習得の身体的基盤の認知神経科学的研究

正高信男

手話の習得や視聴覚情報と自己受容感覚との統合過程など、高次認知機能の身体的基盤が言語習得に果たす役割を、乳幼児を中心として、心理実験および神経活動の非侵襲的手法をもちいて研究した。学習の過程を縦断的に追跡することで、情報処理の発達が脳・身体の可塑性と、どう関わるかの解明をめざしている。

A-2) 学習困難を持つ子どもの心理課題遂行時の脳内機序の解明および支援プログラムの評価

正高信男

学習困難をもつ子どもの認知機能と脳機能の関連性の分析を行い、学習困難に関する類型化を行った。

B) チンパンジーにおける視聴覚統合

泉明宏

チンパンジーにおける視聴覚統合処理について研究している。主として視聴覚の同期性、量の表象について検討した。

C) ニホンザルにおける他個体の映像に対する興味

泉明宏・土田順子 (自治医大)

加齢にともなう他個体との交渉の減少について検討する目的で、老齢・若齢ニホンザルを対象に、コンピュータディスプレイに映し出された他個体の映像に対する”興味”について検討した。

D) 行動実験制御装置およびプログラムの開発

南雲純治

1. 心的回転認知実験および空間回転認知実験用ソフトの作成。2. 光点による生物学的運動 (バイオリジカルモーション) の動画ファイル生成および編集ソフトの作成。3. 仮想専用線導入による遠隔地との LAN 型ネットワークシステムの構築 (代表者) 4. USB インタフェースキットを利用した安価汎用入出力ボードの試作

<研究業績>

◇原著論文

- 1) Ceugniet, M., Izumi, A. (2004) Individual vocal differences of the coo call in Japanese monkeys (*Macaca fuscata*). *Comptes Rendus Biologies* 327(2): 149-157